

別記第1号様式

平成16年度事前評価調書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	1	研究課題名	鶴川地方に伝承されるアイヌの音楽についての調査研究			
事業区分	重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析
共同研究機関 (協力機関)		各種施策等との関連性 第3次北海道長期総合計画 大項目：だれもが安心して暮らせる住みよい社会を形成する 中項目：アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重され地位の向上が図られる社会の実現 目 標：アイヌ文化の保存振興とアイヌの人たちに対する理解の促進				
研究期間及び所要見込額(千円)	17年度～19年度	初年度	次年度	次々年度以降	全体所要額	
		100 (100)	100 (100)	100 (100)	300 (一財 300)	
研究の概要						
○ 研究背景 ・アイヌの伝統的な音楽には、主に儀礼の場で行われ地域社会を中心として伝承されるもの(座り歌、踊り歌など)と主に日常的・私的な場面などで個人を中心として伝承されるもの(子守歌、叙情歌、まじないなどの唱えことなど)がある。それぞれのジャンルを形成している個々のレパートリーは、地域によって様々である。 これまでアイヌの音楽について網羅的に行われた調査として最大のものは、NHK札幌放送局による1961年から1962年にかけての「アイヌ伝統音楽」の事業である。またその後、北海道教育委員会などによる調査事業がある。これら先行する資料によって、ある程度まで各地域別の伝承曲目やジャンルの全体像をつかみ得るが、それぞれの地域や年代でのレパートリーやジャンルの実態、その地域の伝統や事情、伝承者自身による説明の記録等が、アイヌ音楽の研究資料として十分に蓄積されているとはいえない。また近年までの伝承内容の変化については情報が、断片的である。 以上のことから、各地のアイヌ音楽の伝承の現状を把握するとともに、各地域間の比較研究の前提として、情報及びそれらの整理が必要である。なお、地元における伝統音楽の継承に役立つ資料作成の要望もあがっている。 ○ 研究目的 ・鶴川地方におけるアイヌの音楽文化について、それぞれのジャンル及び一曲毎の情報を整理し、研究や伝承活動に役立つ基礎資料、参考資料を作成する。 ○ 研究内容 ・座り歌、踊り歌などの儀礼の場での音楽や日常的または私的な場での音楽について、鶴川地方を対象に記述し、それぞれのジャンルの特徴や、一曲毎の歌詞、旋律、歌い方の特徴、時代的な変化などについてまとめる。 なお本研究に先立つ研究として、研究センターによる「旭川地方に伝承される座り歌・踊り歌についての調査研究」があり、旭川地方におけるアイヌ音楽のうち特に座り歌と踊り歌の伝承状況について調査し、その記録を資料として整備することを行っている。本研究はこれに続くものとして基本的に旭川の場合と同様の考え方と手法により進めるが、座り歌・踊り歌以外のジャンルについても対象とする。 ○ 年次別目標 平成17年度 既存資料の調査と内容整理、聞き取り調査 平成18年度 既存資料の調査と内容整理、聞き取り調査(補足) 平成19年度 聞き取り調査(補足)まとめ ○ 研究計画の適切性 ・先に旭川地方の調査研究を行っており一定の手法の確立をみていること、また、伝承者からの聞き取り調査については新たな採録も行うが、既に過年度において採録した資料もあることから、上記の期間・経費によって目標を十分に達成できると考えている。						
研究の成果と活用策						
○ 期待される成果 ・鶴川地方におけるアイヌ音楽の伝承状況の解明 ・研究や伝承活動に活用できる基礎資料の提示 ○ 実現の可能性 ・鶴川地方には、日常的にアイヌの伝統的な音楽が行われていた時代を知る伝承者が数名在住しており、十分な情報が得られると予測される。また、既存の資料と採録した資料との比較検討が可能である。 ○ 成果の活用策 ・特定の地域を対象としたアイヌの音楽文化を解明することで、他の地域との比較へと展開する ・音楽を通じてアイヌ文化を理解するための学習や研究の基礎資料、参考資料として活用できる。						
道が取り組む必要性						
・アイヌ音楽についてのデータの取扱いには専門的な知見を要することから、アイヌ文化に関する試験研究機関が取り組む必要性が高い。						
【自己評価】	【説明】					
①・B・C	鶴川地方におけるアイヌ音楽の伝承状況を解明し、基礎資料を整理する中で新たな知見が期待できること、また、地域の情報収集の積み重ねが今後の研究の素材となる。また、文化継承に役立つ資料作成の要望もあり、研究に値する課題である。					
【総合評価】	【意見】					
①・B・C	既に鶴川地方において歌や踊りについて聞き取り調査を実施し、同地方内においても地区によっては伝承曲目に違いがあること等が判明しており、本研究により様々な先行資料と新たな知見の整理を行うことで一曲ごとの情報を記録することは、アイヌ音楽の研究や伝承活動の促進につながるため、優先して取り組む必要がある。					

(A) 重要な研究課題であり、優先的に取り組む必要がある
 (B) 有用な研究課題であり、できる限り早期に取り組む必要がある
 (C) 解決すべき問題等があり、なお検討していく必要がある

(a) 極めて高い、適切である
 (b) 高い、概ね適切である
 (c) 低い、改善の余地がある